

課程博士の学位授与申請に係わる審査報告書

学籍番号 15DC1604

氏名（本籍） 臧政（中国）

学位の種類 博士（中国研究）

報告番号 甲第115号

学位授与年月日 2021（令和3）年3月20日

学位授与の要件 学位規則第4条第1項該当

論文題目 “未备先老”下的长期护理需求与制度供给探索：基于东亚地区实践的中国本土实证研究

審査委員

主査 唐 燕霞 

副査 松岡 正子 

副査 金 湛 

副査 周 星 

2021（令和3）年2月4日
愛知大学大学院中国研究科

審査の結果の要旨

本学中国研究科委員会の決定に基づいて、臧政から提出された博士の学位授与申請書、学位申請論文および参考関連論文等関係資料に対して、2020年10月24日に予備審査を行った。「大学院博士の学位授与に関する内規」第7条の定めにより、以下の2項目について、審査委員会において、慎重に審査した。

- (1) 学位申請論文の予備審査及び履歴書、研究歴、業績目録について、十分評価できるという結論に至った。
- (2) 外国語についての試問は不要であるという結論に至った。

予備審査の結果、博士学位申請論文は基本的要件を満たしており、学位授与申請の受理を可とし、本審査への移行を可とした。

2021年1月26日10時から11時40分まで、学位申請論文の本審査が愛知大学名古屋キャンパスでZoomを使って順調に行われた。

まず、臧政より学位申請論文の趣旨、問題意識、研究課題に関する先行研究、論文の構成、理論的枠組み、フィールドワークの結果、論文の学術的貢献などについて説明がなされた。次に、審査委員による口頭試問に移り、質疑応答を行った。

口頭試問終了後、引き続き審査委員会において議論した結果、以下の結論に至った。

臧政の学位申請論文『“未備先老”下の長期護理需求與制度供給探索：基於東亞地区実践的中国本土実証研究』は、社会学「四要素」の分析枠組みと福祉多元主義の理論的枠組みを結びつけて、ドイツとアメリカなどの先進国の長期介護制度を比較分析し、さらに東アジアの日本と台湾の長期介護制度の特徴と課題を分析した上で、実証研究を踏まえて中国の長期介護制度を構築するための政策的提言を提示した。まず、序章で構築した社会学「四要素」の分析枠組みに基づいて、第1章ではドイツとアメリカなどの先進国の長期介護制度における「経済、政治、社会、文化」の四要素の内容を比較検討し、それによって導き出された経済要素における「利益互惠性」、政治要素における「人格共識性」、社会要素における「公平平等性」、文化要素における「価値共享性」の特徴の中国に与える示唆をまとめた。

第2章では、著者の日本名古屋市中村区社会福祉協議会や台湾新北市での聞き取り調査及び日本厚生労働省などのデータに基づいて、日本と台湾の介護保険制度や高齢者介護の問題点などを指摘した上で、中国に与える示唆をまとめた。日本と台湾の介護制度に対する総括を通して、著者は施設介護から在宅介護及び社区介護に重点をシフトし、在宅と社区による長期介護を拠り所にし、長期介護保険制度を創設することは今後中国の発展すべき道であると主張した。

第3章では、著者が武漢市で行ったアンケート調査とインタビュー調査を踏まえて、前述の理論的枠組みで中国の長期介護の需要と供給の現状と問題点を分析し、今後の介護保険制度制定に対する期待と政策的提言を行った。実証研究に基づいて、武漢市における高齢者の長期介護に対する需要には、以下の3つの特徴があるとする。①高齢者の介護状況は芳しくなく、ケアの問題点が多い。②高齢者の長期介護において需要が高い。③長期介護を受けている高齢者は相応の制度制定に対して期待が大きい。統計分析に基づいて、高齢者の長期介護は在宅介護を主とし、施設介護を従とすべきであると主張した。さらに、武漢市の高齢者の長期介護の需要と制度制定に対する期待に対して、著者は社会学「四要素」の分析枠組みに基づいて、都市の高齢者長期介護の制度供給の問題を分析し、以下の問題点を指摘した。①多様化している高齢者長期介護の需要が満たされていない。②長期介護の発展において、政府、市場、家庭のそれぞれの責任と義務が不明確である。③長期介護における「福利」と「産業」の二重性が不均衡である。

第4章では、第3章の実証研究で指摘された問題点について、社会学の「四要素」分析枠組みと福祉多元主義に基づいて、長期介護制度の供給モデルをいかに構築すべきかを論じた。著者は福祉多元主義に基づく「小政府、大社会、市場化、在宅式」の長期介護制度の供給モデルを確立し、社区を紐帯とし、公共部門、営利部門、非営利部門及び家族の協働を実現すべきだと提唱した。さらに、長期介護は日常生活ケアサービス、専門的医療サービス、精神的ケアサービス、及び社会的需要サービスの四つの側面から需要を把握し、分配基礎、資金調達方式、輸送策略、福祉類型の四つの側面から制度を完備すべきであることを主張した。

第5章では、長期に渡る一人っ子政策の実施によって「4・2・1」の家族構成が形成され、伝統的な「孝」文化に基づく老親の家族扶養の維持が困難になりつつある中国社会において、いかに「私」領域の「孝」から「公」領域の「敬」へ価値転換させ、高齢者介護を家族の義務から社会の責任へ転換させるかについて論じた。

結論として、まずマクロの視点から、福祉多元主義に基づく「小政府、大社会、市場化、在宅式」の長期介護制度の供給モデルを確立し、社区を紐帯とし、公共部門、営利部門、非営利部門及び家族の協働を実現すべきだと提唱した。メゾの視点から、社会政策の分析枠組みに基づく長期介護制度の供給モデルを構築し、分配基礎は保障対象の普遍性と選択性を結合し、政治責任と社会責任が結びつく資金調達方式を実施し、政府主導、在宅介護を主とする輸送策略を構築し、福祉類型については実物給付と現金給付を結びつけるべきであるとした。ミクロの視点から、高齢者の長期介護は「日常生活ケアサービス」、「専門的医療サービス」、「精神的ケアサービス」、及び「社会的需要サービス」の四つの側面を含むべきであると主張した。

臧政論文の評価すべき点としては、以下の3点が挙げられる。

一つ目は、テーマ設定の現実的意義である。2030年に中国の高齢化はピークに達すると予想される。さらに、長年実施していた「一人っ子政策」の影響で、中国の家族構造は「四

二一」になり、高齢者に対する伝統的な家族介護は機能的にも現実的にも困難になりつつある。蔵論文の高齢者の長期介護の需要と制度の供給に対する理論的・実証的な分析は、益々深刻化しつつある高齢化社会への対応に有益な政策的提言を与えた。

二つ目は、社会学の「四要素」分析枠組みと福祉多元主義を結びつけて、高齢者の長期介護制度を理論的に分析したところに斬新性がある。中国の長期介護制度に関する研究はまだ緒についたばかりであり、蔵論文は従来の研究であまり言及されていない分野において、社会学の「四要素」の分析枠組みを用いて先進国の長期介護制度について比較分析し、さらに福祉多元主義の理論と社会政策の分析枠組みを用いて長期介護制度の供給モデルの構築を分析した。

三つ目は、長期介護制度の問題に対して定量的分析と定性的分析を組み合わせる研究方法を利用したことである。蔵論文は武漢市の老人に対するアンケート調査、聞き取り調査、及び台湾新北市、名古屋市中村区社会福祉協議会での聞き取り調査を通して、豊かで、信憑性のある一次資料を大量に獲得した。

しかし、蔵政論文に不足するものとして、以下の諸点が指摘できる。

第一に、中国の長期介護に関する制度設計は理想的であり、具体的な実現可能性についてはあまり言及されていない。

第二に、都市と農村の二元社会を形成する中国において、農村の高齢者介護問題は極めて厳しい。中国の長期介護制度を構築する際には、農村の高齢者介護問題も配慮すべきであろう。

本論文は、以上の指摘のように不十分な点はあるものの、課程博士学位請求論文として一定の水準に到達していると判断できる。口頭試問当日は、主査・副査による質疑に対しても、適切に応答した。よって審査委員会は全員一致で、本論文は博士学位授与に値すると判断した。